

## 出演者プロフィール



©Ayumi Kakamu

### トヨタ・マスター・プレイヤーズ, ウィーン

ウィーン国立歌劇場の協力を得て、本公演のために特別に編成された世界最高レベルの室内オーケストラ。

ウィーン・フィル、ウィーン国立歌劇場のメンバーを中心に、ヨーロッパで活躍するアーティスト仲間たちも加わった 30 名で編成されている。

[芸術監督:フォルクハルト・シュトイデ]

#### ■芸術監督・コンサートマスター



©Andrej Grlic

#### フォルクハルト・シュトイデ Volkhard Steude 〈ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団 コンサートマスター〉

1971年ライプツィヒに生まれ、5歳よりヴァイオリンを始める。88年ベルリンのハンス・アイスラー音楽大学に入学、ヨアヒム・シュルツ、ヴェルナー・シュルツ両教授に師事。大学在学中、エスタ国際ヴァイオリン・コンクール第4位入賞、シュポア国際ヴァイオリン・コンクールにて特別賞を受賞する他、グスタフ・マーラー・ユース管弦楽団の第1コンサートマスターを務める等、オーケストラ奏者としても活躍。94年同大学卒業と同時にウィーンに留学、元ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団奏者であるアルフレド・スター教授に師事。同年コンサートマスターとしてウィーン国立歌劇場管弦楽団に入団、98年ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団に入団、99年よりコンサートマスターを務めている。2002年には自らが主宰するシュトイデ弦楽四重奏団を結成する等、ソロや室内楽の多方面で活躍している。

#### ■ソリスト



©Theresa Wey

#### ヘドウィグ・リッター Hedwig Ritter 〈ソプラノ〉(プログラムA)

1995年ブルゲンランド(オーストリア)に生まれる。9歳の年にPrima La Musicaコンクールにてトランペットで第1位受賞。ウィーン市立音楽芸術大学及びケルン音楽舞踊大学にて音楽を研鑽。期間中に、『アルチャーナ』のオベルト役や『こうもり』のアデーレ役等でウィーンやケルンの歌劇場に出演。22/23年シーズンはアーヘン(ドイツ)、リンツ(オーストリア)、ランゲンロイス(オーストリア)、ヴェルツブルク(ドイツ)等各地の歌劇場にて登場する他、ウィーン・フォルクスオーパーの専属歌手として契約。『こうもり』のアデーレ役、『天国と地獄』のユリディス役、更には『伯爵夫人マリツァ』のリーザ役に出演する予定。今後、より世界的な活躍が期待される、スター候補のコロラトゥーラ・ソプラノである。



#### エルヴィン・克蘭バウアー Erwin Klambauer 〈ウィーン交響楽団ソロ・フルート〉(プログラムB)

9歳よりリンツのブルックナー音楽院(現ブルックナー大学)にてフルートとピアノを始め、その後ウィーン国立音楽大学にてW.シュルツ氏に師事、1991年最優秀の成績で卒業。学生時代よりグスタフ・マーラー・ユース管弦楽団、EUユースオーケストラ、カメラータ・ザルツブルク等の首席奏者を歴任し、92年オーストリア連邦劇場管弦楽団に入団。93年ウィーン放送交響楽団のソロ・フルート奏者に就任し、数多くのテレビ、ラジオの収録やCDの録音を積極的に行っている。ソリストとしてヨーロッパ及びアメリカ、ロシア、中国、日本、韓国等世界各地で演奏活動を行う他、室内楽奏者としても活躍し、アンサンブル・コントラプント、ウィーン放送交響楽団木管五重奏団等のメンバーを務める。また世界各地でワークショップやマスタークラスを開催しており、ウィーン国立音楽大学やウィーン音楽院で教鞭を執る。2008年10月グラーツ音楽大学教授に就任、現在ウィーン交響楽団ソロ・フルート奏者を務める。



©Takehiro Goto

#### 小菅 優 Yu Kosuge 〈ピアノ〉(プログラムB)

2005年カーネギーホールで、翌06年にはザルツブルク音楽祭でそれぞれリサイタル・デビュー。ドミトリエフ、デュトワ、小澤等の指揮でベルリン響等と共演。10年ザルツブルク音楽祭でポゴレリッチの代役として出演。その後も世界的な活躍を続ける。現在は様々なベートーヴェンのピアノ付き作品を徐々に取り上げる新企画「ベートーヴェン詣」に取り組む。14年に第64回芸術選奨音楽部門 文部科学大臣新人賞、17年に第48回サントリー音楽賞受賞。16年秋、ベートーヴェンのピアノ・ソナタ全集完結記念ボックスセットをリリース。2017年から4年にわたり、4つの元素「水・火・風・大地」をテーマにしたリサイタル・シリーズ『Four Elements』を開催し好評を博した。



**ベルンハルト・ハインリヒス Bernhard Heinrichs** 〈チューリッヒ歌劇場管弦楽団ソロ・オーボエ〉(プログラム B・C)

1963年バンベルク(ドイツ)に生まれる。ミュンヘン音楽大学にてG.パッシン教授に師事。アーキス五重奏団のメンバーとして、ボンで開催したドイツ音楽コンクールを始め、ベオグラード(セルビア)、コルマール(フランス)等で開催された音楽コンクールにて受賞。91年チューリッヒ歌劇場管弦楽団のソロ・オーボエ奏者に就任。N.アーノンクール、F.ウェルザー=メスト、C.アバド、R.シャイー、C.v.ドホナーニ、B.ハイティンク等の著名な指揮者と共演する他、ザルツブルク音楽祭やシュレスヴィヒ・ホルシュタイン音楽祭、PMF等の世界各地の音楽祭に招かれ、S.マイヤー(クラリネット)、C.テツラフ(ヴァイオリン)、G.オピッツ(ピアノ)、C.エッセンバッハ(ピアノ)、L.O.アンズネス(ピアノ)等一流音楽家と共演し、室内楽奏者として活躍している。また、画家としてのキャリアも持ち、チューリッヒ、オスロ、マイアミ、ミュンヘン、ウィーン、ストックホルム等で絵画が展示されている。

■指揮(プログラムC)



**秋山 和慶 Kazuyoshi Akiyama**

1941年生まれ。齋藤秀雄のもとで指揮法を修め、1963年に桐朋学園大学音楽学部を卒業。1964年2月に東京交響楽団を指揮してデビューののち同団の音楽監督・常任指揮者を40年間にわたり務める。その間、アメリカ響音楽監督、バンクーバー響音楽監督(現在桂冠指揮者)、シラキウス響音楽監督等を歴任。また、ニューヨーク・フィル、ボストン響、クリーヴランド管、シカゴ響、ケルン放響、ベルリン放響、北ドイツ放響、スイス・ロマン管等世界の一流オーケストラに客演している。これまでにサントリー音楽賞、芸術選奨文部大臣賞、大阪芸術賞、毎日芸術賞、川崎市文化賞、京都音楽賞大賞等を受賞。2001年紫綬褒章、2011年旭日小綬章を受章。2014年度文化功労者に選出。現在、中部フィルハーモニー交響楽団芸術監督・首席指揮者、日本センチュリー交響楽団ミュージックアドバイザー、岡山フィルハーモニック管弦楽団ミュージックアドバイザー、東京交響楽団桂冠指揮者、広島交響楽団終身名誉指揮者、九州交響楽団桂冠指揮者等多くの任を務める他、洗足学園音楽大学芸術監督・特別教授、京都市立芸術大学客員教授を務めている。

■管弦楽(プログラムC)



**名古屋フィルハーモニー交響楽団 Nagoya Philharmonic Orchestra**

“名フィル”の愛称で親しまれ、名古屋市を中心に東海地方の音楽界をリードし続けている。意欲的なプログラミングの「定期演奏会」をはじめバラエティに富んだ年間約110回の演奏会に出演している。2023年4月からは川瀬賢太郎が音楽監督に、小泉和裕が名誉音楽監督に就任予定。  
<http://www.nagoya-phil.or.jp/>

■メンバー

[ヴァイオリン]



**ミラン・セテナ Milan Šetena** 〈ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団〉

プラハに生まれる。1988年プラハ音楽院を卒業後、ウィーンにてA.スター教授に師事。90年ウィーン国立歌劇場管弦楽団及びウィーン・フィルハーモニー管弦楽団に入団。室内楽奏者として、ザルツブルクをはじめとする音楽祭に出演し、世界各地で演奏活動を行う。また、ウィーン・ストリング・ソロイストのメンバー、シュルホフ弦楽四重奏団の第1ヴァイオリン奏者を務めている。



**ドリアン・ジョジ Dorian Xhoxhi** 〈ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団〉

1984年ティラナ(アルバニア)の音楽一家に生まれ、6歳より父のもとでヴァイオリンを始める。ミュンヘン音楽大学、ベルリンのハンズ・アイスラー音楽大学にて研鑽を積み、2006～09年ヴィラ・ムジカの特待生として、五嶋みどり、R.ファイン、Z.ブロン、E.フェルツの各氏に師事。ベルリン・ドイツ交響楽団、ゲヴェントハウス管弦楽団を経て、10年第1ヴァイオリン奏者としてベルリン・フィルハーモニー管弦楽団に入団。



**マリアン・ガスパール Marián Gašpar** 〈元カメラータ・ザルツブルク コンサートマスター〉

1970年ブラティスラヴァ(スロヴァキア)に生まれる。89年よりウィーン国立音楽大学にてG.ヘッツェル、R.キュッヒル、A.スターの各教授に師事。ウィーン・カンマーフィルハーモニー、ウィーン・カンマー・オーケストラ、カメラータ・ザルツブルクのコンサートマスター、またカペラ・イストロポリターナ、スロヴァキア・フィルハーモニー管弦楽団、スピリット・オブ・ヨーロッパ管弦楽団のゲスト・コンサートマスターを歴任。



**アルヴァロ・パラ Álvaro Parra** 〈ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団〉

1977年コンセプション(チリ)に生まれる。96年よりベルリンのハンズ・アイスラー音楽大学にてS.ピカードとM.ミュッケの両教授に師事し、2002年ベルリン・フィルのカラヤン・アカデミーへ入学。05年チリ・カトリック大学のヴァイオリン教授に就任。08年再びベルリンへ戻り、コンツェルトハウス管弦楽団第1ヴァイオリン奏者を経て、13年第1ヴァイオリン奏者としてベルリン・フィルハーモニー管弦楽団に入団。



**シュケルツェン・ドリ Shkelzen Doli** 〈ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団〉

アルバニアに生まれる。セルビアのノヴィ・サド音楽学校を経てウィーン芸術大学を卒業。17歳でユーゴスラヴィア青少年音楽コンクールに優勝し、ソリストや室内楽奏者としてヨーロッパ、北米、アフリカ、イスラエル、日本等の各地で演奏。2006年ウィーン国立歌劇場管弦楽団、09年ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団に入団する他、ウィーン・ヴィルトゥオーゼン、アンサンブル・ウィーン・カレッジ、ザ・フィルハーモニックス等のメンバーを務めている。



**アンドレアス・ノイフェルト Andreas Neufeld** 〈ベルリン放送交響楽団〉

1976年クラスノダル(ロシア)に生まれる。2000年ハイデルベルク・マンハイム音楽大学卒業。EU ユース・オーケストラ、グスタフ・マーラー・ユース管弦楽団、ドイツ・オペラ・ベルリン、ベルリン・コンツェルトハウス管弦楽団、ベルリン国立歌劇場管弦楽団、ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団等に出演。98～09年ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団第1ヴァイオリン奏者を務め、12年よりベルリン放送交響楽団第1ヴァイオリン・フォアシュピラーを務めている。



**ミハール・マチャシチュク Michał Maciaszczyk** 〈ソリスト/ポリッシュ・アート・フィルハーモニック芸術監督〉

8歳から音楽教育を受ける。ポズナン音楽大学卒業。ウィーンに在住し、ウィーン室内管弦楽団のコンマスを務め、ウィーン国立歌劇場舞台管弦楽団、ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団の客演奏者として多くの世界最高のアーティストとの共演を通して、クラシック音楽の極みを体験している。ソリスト、室内楽奏者及び指揮者としても世界各地で活躍している。現在、ポーランドのデル・アルテ・フェスティヴァル芸術監督も務めている他、客員教授として北京中央音楽院に招かれている。



**オレアダ・シュトイデ Oreda Steude** 〈ウィーン国立歌劇場舞台管弦楽団〉

1973年ティラナ(アルバニア)に生まれる。グラーツ音楽大学を最優秀の成績で卒業。94年ゴリツィア国際コンクール優勝。グラーツ交響楽団、ウィーン室内管弦楽団、ウィーン・カンマーフィルハーモニーを経て、2001年よりウィーン国立歌劇場の舞台管弦楽団メンバーを務める。同劇場の公演及びウィーン・フィルハーモニー管弦楽団の公演にも定期的に出演している。

[ヴィオラ]



**エルマー・ランダラー Elmar Landerer** 〈ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団〉

1974年ザルツブルクに生まれる。90年グスタフ・マーラー・ユース管弦楽団及びEU ユース・オーケストラに入団。96年ウィーン国立歌劇場管弦楽団、ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団に入団。また、99年よりウィーン・フィルハーモニア・トリオ、ベルヴェデーレ・トリオ、2000年よりウィーン・ヴィルトゥオーゼン、02年よりシュトイデ弦楽四重奏団等のメンバーを務めている。



**ペーター・サガイシェック Peter Sagaischek** 〈ウィーン・フォルクスオーパー交響楽団ソロ・ヴィオラ〉

1965年ウィーンに生まれる。ウィーン国立音楽大学にてR.キュッヒル、A.スターの両教授に師事。90年ヴィオラ奏者としてウィーン・フォルクスオーパー交響楽団に入団。93年より同楽団のソロ・ヴィオラ奏者を務める。室内楽奏者として、これまでフィルハーモニー弦楽四重奏団、グスタフ・マーラー四重奏団、トリプルス・ウィーンのメンバーを務める他、ソリストとしても活躍している。



**ローマン・ベルンハルト Roman Bernhart** 〈ウィーン交響楽団ソロ・ヴィオラ〉

1968年オイラツフェルド(オーストリア)に生まれる。ブルックナー音楽院をヴァイオリンで卒業後、ウィーン国立音楽大学に進学し、ヴィオラに転向。アンサンブル・アクトゥエル、エオス弦楽四重奏団等のメンバーとして、ウィーン・コンツェルトハウスのコンサートシリーズに長年出演する他、ヨーロッパの著名な音楽祭に招かれている。93年よりウィーン交響楽団ソロ・ヴィオラ奏者を務めている。

[チェロ]



**ペーテル・ソモダリ Péter Somodari** 〈ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団/ウィーン国立歌劇場管弦楽団 ソロ・チェロ〉

1977年にヴェスプレーム(ハンガリー)に生まれる。4歳よりチェロを始める。ブダペスト、ザールブリュッケンの音楽院にて研鑽を積む。2005年マルクノイキルヘン国際コンクールにて優勝を飾る。室内楽奏者として、C.テツラフ、L.カヴァコス、T.ツインマーマン、G.クルターグ等多くの音楽家と共演。ハンガリー国立歌劇場、ルツェルン交響楽団を経て、2012年にウィーン国立歌劇場及びウィーン・フィルハーモニー管弦楽団のソロ・チェリストに就任。2018年よりウィーン国立音楽大学客員教授を務める。



**エディソン・パシュコ Edison Pashko** 〈ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団〉

1973年コルカ(アルバニア)に生まれる。93年グラーツ音楽大学に入学。リーゼン国際チェロ・コンクール第2位受賞。2010年ウィーン国立歌劇場管弦楽団、13年ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団に入団。また、現代音楽の分野でも精力的に活動し、ウィーン放送交響楽団、アンサンブル・ディ・ライヘ、アンサンブル・ウィーン・カレッジの現代音楽コンサートに出演している。



**エリック・ウメンホフアー Erik Umenhoffer** 〈ウィーン交響楽団第2ソロ・チェロ〉

1989年バヤ(ハンガリー)に生まれる。8歳よりチェロを始め、ヤーノシュ・シュタルケル・コンクール第1位受賞等、数多くのコンクールに入賞する。2008年ブダペスト音楽大学に入学し、10年よりR.ナジ教授のもとで研鑽を積む。ウィーン・コンツェルト・フェライン、ウィーン交響楽団等のメンバーを務める他、ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団の補助団員としても活躍。現在、ウィーン交響楽団第2ソロ・チェロ奏者。

[コントラバス]



**ヨゼフ・ニーダーハマー Josef Niederhammer** 〈ソリスト/ウィーン国立音楽大学教授〉

1977年ウィーン国立音楽大学卒業。ウィーン交響楽団、バンベルク交響楽団、バイエルン州立管弦楽団を経て、86~91年ミュンヘン・フィルハーモニー管弦楽団ソロ・コントラバス奏者を務める。ミュンヘン音楽院、ミュンヘン音楽大学等の教授を歴任する他、ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団の客演奏者や、室内楽奏者としても活躍している。現在、ウィーン国立音楽大学教授を務めている。



**ミハエル・ブラーデラー Michael Bladerer** 〈ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団〉

1968年ヴァイドホーフェン(南オーストリア)に生まれる。ウィーン国立音楽大学を最優秀の成績で卒業。ウィーン交響楽団、ベルリン・コーミッシェ・オーパー等を経て、99年にウィーン国立歌劇場管弦楽団、2002年にウィーン・フィルハーモニー管弦楽団に入団。またPMFや南カリフォルニア大学、ニューイングランド音楽院等でマスタークラスを開催。ウィーン八重奏団等のメンバーを務めている。

[フルート]



**マティアス・シュルツ-アイグナー Matthias Schulz-Eigner** 〈ウィーン国立歌劇場舞台管弦楽団〉

1972年ウィーンに生まれる。ウィーン国立音楽大学にて父のW.シュルツ氏に学び、最優秀の成績で卒業。ソリストとして、これまでウィーン室内管弦楽団、ブルックナー管弦楽団、ザルツブルク・モーツァルテウム管弦楽団、中部ドイツ放送交響楽団等と協演し、各地の音楽祭に出演。ウィーン国立歌劇場管弦楽団、ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団、ウィーン放送交響楽団等に出演している。

[オーボエ]



**ヘルベルト・マデルターナー Herbert Maderthaner** 〈ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団〉

1981年ヴァイドホーフェン(南オーストリア)の音楽一家に生まれる。7歳より兄の元でクラリネットを始める。その後オーボエの音色に魅了され、96年に転向し、2000年ウィーン市立音楽院に合格。05年よりウィーン放送交響楽団の第2オーボエ及びコールアンブレ奏者を5年間務めたのち、10年にウィーン国立歌劇場管弦楽団、13年にウィーン・フィルハーモニー管弦楽団に入団。また、室内楽奏者としても活躍している。

[クラリネット]



**ゲラルド・パッヒンガー Gerald Pachinger** 〈ウィーン交響楽団ソロ・クラリネット〉

1967年リード(オーストリア)に生まれる。84年にウィーン国立音楽大学に入学、P.シュミードル教授に師事。87年に首席奏者としてウィーン交響楽団に入団。これまでソリストとして数々の著名指揮者、またウィーン交響楽団、ウィーン室内管弦楽団等と協演。客演奏者としても定期的にベルリン・フィルハーモニー管弦楽団等に招かれる。ウィーン木管アンサンブル、ウィーン五重奏団、ウィーン室内合奏団等のメンバーを務める等、室内楽奏者としても活躍している。



**ペーター・ロイトナー Peter Leuthner** 〈ウィーン国立歌劇場舞台管弦楽団客演奏者〉

ウィーン国立音楽大学にてP.シュミードル教授に師事し、1990年卒業。A.プリンツ、K.ライスター両教授のマスタークラスを受ける。1991年から1995年までウィーン国立歌劇場舞台管弦楽団員を務める。その後は、定期的に客演奏者としてウィーン国立歌劇場舞台管弦楽団やウィーン・フィルハーモニー管弦楽団の演奏に参加。

[ファゴット]



**リチャルト・ガラー Richard Galler** 〈ウィーン交響楽団ソロ・ファゴット〉

1967年グラーツ(オーストリア)に生まれる。ザルツブルク・モーツァルテウム大学にてM.トゥルコヴィッチ氏に師事。パブロ・カザルス音楽祭、浜松国際管楽器アカデミー、PMF等世界各地の音楽祭に出演。87年ウィーン交響楽団の首席ファゴット奏者に就任。

2004年よりM.トゥルコヴィッチの後任としてウィーン国立音楽大学教授を務める。

ウィーン室内アンサンブル、ウィーン=ベルリン木管五重奏団のメンバーとしても活躍している。



**ビアンカ・シュースター Bianca Schuster** 〈ウィーン・フォルクスオーパー交響楽団〉

1973年フォアアールベルク(オーストリア)に生まれる。93年にウィーン芸術大学に入学、M.トゥルコヴィッチ、S.トゥルノフスキーの両教授に師事。

2012年よりウィーン・フォルクスオーパー管弦楽団第1ファゴット奏者を務める。また、客演奏者としてウィーン・フィルハーモニー管弦楽団、

ウィーン国立歌劇場等に招かれる他、ウィーン室内管弦楽団等のメンバーを務める。グスタフ・マーラー私立音楽大学教授。

[ホルン]



**ロナルド・ヤネツィック Ronald Janezic** 〈ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団 首席〉

1968年ノインキルヘン(オーストリア)に生まれる。父親は元ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団のホルン奏者。6歳よりヴァイオリンを始める。

ウィーン国立音楽大学に入学後、83年ホルンに転向。90年第1ホルン奏者として、ウィーン国立歌劇場管弦楽団に入団。

92年よりウィーン・フィルハーモニー管弦楽団ソロ・ホルン奏者を務める。また、ソリストとして、同楽団と協演したCDもリリースされている。



**ヤン・ヤンコヴィッチ Jan Janković** 〈ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団〉

1984年ザグレブの音楽一家に生まれる。96年ウィーン市立音楽大学に入学、F.ガブラー、W.ヤネツィックの両氏に師事。

2003年最優秀の成績で卒業後、ウィーン・トーンクンストラ管弦楽団やザグレブ・フィルハーモニー管弦楽団を経て、

08年にウィーン国立歌劇場管弦楽団、11年にウィーン・フィルハーモニー管弦楽団に入団。

また、ウィーン・ヴィルトゥオーゼンやウィーン木管八重奏団等のメンバーを務めている。

[トランペット]



**ステファン・ハイメル Stefan Haimel** 〈ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団〉

1982年クラゲンフルト(オーストリア)に生まれる。小学生の頃より父のF.ハイメル氏にトランペットを学ぶ。

ウィーン国立音楽大学にてJ.ボンベルガー氏に師事、2002年卒業。ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団をはじめとする

ウィーンの主要な管弦楽団にて客演奏者として活躍。04にウィーン国立歌劇場管弦楽団、07年にウィーン・フィルハーモニー管弦楽団に入団。



**ゲルハルト・ベルンドル Gerhard Berndl** 〈ウィーン国立歌劇場舞台管弦楽団〉

1981年シュタイヤー(オーストリア)に生まれる。10歳よりアッシュバツハ音楽学校にてトランペットを始める。

ウィーン国立音楽大学にてJ.ボンベルガー氏に師事し、2008年卒業。ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団をはじめ、

ウィーンの主要な管弦楽団にて客演奏者として活躍、03年9月よりウィーン国立歌劇場舞台管弦楽団へ入団。

[ティンパニ]



**ミハエル・ヴラダー Michael Vlado** 〈ウィーン交響楽団ソロ・ティンパニ〉

1962年ウィーンに生まれる。ウィーン国立音楽大学にてH.ベルガー教授に師事。84年よりザルツブルク・モーツァルテウム管弦楽団、

カメラータ・アカデミカ・ザルツブルクのティンパニ奏者を歴任し、90年ウィーン交響楽団のソロ・ティンパニ奏者となる。

またウィーン・ヴィルトゥオーゼン、ウィーン・コンチェントゥス・ムジクス等のメンバーとしても活躍している。